

正網遺跡 第18・19地点

遺跡名	正網遺跡
よみがな	しょうあみいせき
調査地点	第18地点、第19地点
主な時代	縄文時代中期～晩期（約4500年前～2500年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	富士見市大字水子字正網5089他
調査面積	合計約1444㎡
調査期間	令和2年11月17日～令和3年2月19日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代の竪穴住居跡11軒、埋甕1基、集石1基 平安時代の竪穴住居跡11軒、中近世の井戸跡1基、地下式坑1基 など</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代中期～晩期の土器、土製品、石器、 平安時代の須恵器坏、土師器片、布目平瓦 など</p> <p>【概要】 正網遺跡は、現在の水子の性蓮寺北側、武蔵野台地の縁辺に位置します。 第18、19地点の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、後期～晩期の竪穴住居跡10軒、平安時代の住居跡11軒をはじめとして、多くの遺構が確認されました。南側に向かって落ち込む谷状の地形に沿って、縄文時代後期～晩期の集落があったようです。住居跡やその周辺からは、当該時期の土器や耳飾り、土偶などが出土しました。また、平安時代の住居跡に関しては、隣接する東台遺跡で大規模な平安時代集落跡が確認されていることから、それらと関連する、もしくは一連の集落跡であることが考えられます。</p>



正網遺跡第18・19地点（写真上方向が北西）



土偶の破片(手の部分)の出土



縄文時代後期の住居跡



縄文時代住居の柱穴が密集して検出された様子

正網遺跡 第18・19地点



縄文時代後期の埋甕(上面から)



縄文時代後期の埋甕(断面)



平安時代の竪穴住居跡を発掘している様子



布目瓦を使って支脚やソデを補強するカマド



平安時代竪穴住居跡カマド内の遺物出土状況



平安時代竪穴住居跡内での須恵器坏などの出土